

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21年 12月 17日

【評価実施概要】

事業所番号	0171000227		
法人名	医療法人 やわらぎ		
事業所名	グループホーム ひまわりの郷		
所在地	江別市上江別西町13番地3 (電話) 011-382-6551		
評価機関名	株式会社 サンシャイン		
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F		
訪問調査日	平成21年12月15日	評価確定日	平成21年12月23日

【情報提供票より】(21年 11月 30日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成)8年 12月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	23 人	常勤 2人、非常勤 21人、常勤換算 12.2人	

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り	
	2階建ての	1.2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	37,000 円	その他の経費(月額)	光熱水費:15,000円 冬季暖房費:7,000円(10~5月)	
敷金	有 (無)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(100,000円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / (無)	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,050 円	

(4) 利用者の概要(11月 30日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	2 名	要介護2		6 名	
要介護3	6 名	要介護4		2 名	
要介護5	2 名	要支援2		0 名	
年齢	平均 84.5 歳	最低	73 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	みどり野医院、みどり野歯科
---------	---------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「グループホーム ひまわりの郷」は、平成8年に認知症をもつ高齢者が地域で共同生活を営むモデル事業として開設し、平成19年に隣の新築に移り住んだ2ユニットの事業所である。法人の病院や施設の十分な支援体制の中で、運営者、管理者、職員は地域との関係を大切にして、利用者が安心して暮らせる環境を提供している。各マニュアル、書類なども整備されており、研修の充実とともに同業者とも活発に交流しサービスに役立てている。職員は事業所の方針に沿って家庭的な暮らしの中で個別ケアを重要視し、笑顔のある温かい対応で接し利用者の暮らしを支えている。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の取り組み課題では、理念を全員で見直し、看取りの方針について詳細な書類を作成し、近所の方が参加しての夜間を想定した訓練を行い、手作りの曆を見て利用者が日めぐりをめくるなど、いづれも真摯に取り組まれている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価の作成で管理者は職員に評価表を渡し、記入してもらったり意見を求めたりしてまとめた。外部評価の結果を踏まえ、自己評価についても会議で話し合う予定である。今後は自己評価を取りまとめた段階で会議の場をもち、評価の確認と事業所としての課題を共有するような取り組みを考えている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議には利用者も参加し運営状況などを詳細に報告している。災害対策を報告する中で、自治会の避難訓練に事業所も参加する方向で話し合っている。委員から出された意見や情報などは「ひまわりだより」に載せて報告し、それらをサービスに生かしている。また会議に自己評価、外部評価の結果を議題に載せて、委員の意見を参考にしたいと考えている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	家族の来訪時に管理者は常に要望や意見を聞く姿勢で対応し、電話連絡の時も意向を聞き出すようにしている。要望などは申し送りノートに記録し、ミニカンファレンスや会議で取り上げ対応を話し合っている。外泊時の状態を聞くためのアンケートを実施し、その中でも意見を聞き運営やサービスに繋げている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に加入し、季節行事やゴミ拾いなどに参加している。事業所の餅つき、流しソーメン、バーベキュー大会などの行事には住民の参加を呼びかけたり、また近所から野菜の届けがあるなど身近な交流を積極的に行っている。数ヶ所から週3回のボランティアの訪問があり、地域との関係が充実している。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設時の理念を見直し、「一、私たちは、お一人お一人のペースを守り、共に支え合います。二、私たちは、ご家族や地域とのふれあいを大切にします。」という、分かりやすい内容に作り直している。理念を実現する指針として、9項目の具体的な実践目標を掲げている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は各ユニットに掲げ、また重要事項説明書に載せて周知している。職員の採用時には理念を教育の一環として研修を行い、ネームプレートの裏に理念とケアの実践目標を記載し、意識化を図っている。職員はミーティング時や日々のケアで理念に基づいたケアが行われているかを確認している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	運営推進会議や回覧板の情報から、自治会の季節行事やゴミ拾いなどに参加している。事業所の餅つき、流しソーメン、バーベキュー大会などの行事に住民の参加を呼びかけたり、また近所から野菜の届けがあるなど身近な交流を積極的に行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	法人内に自己評価の仕組みがあり、グループホームは本評価制度を充てている。自己評価の作成で管理者は職員に評価表を渡し、記入してもらったり意見を求めてまとめているが、その後の話し合いは持たれていない。外部評価の結果を踏まえ、自己評価についても会議で話し合う予定である。		自己評価を取りまとめた段階で会議の場をもち、評価の確認と事業所としての課題を共有するような取り組みに期待したい。またユニットごとの特徴を活かし、所属する職員が全員で話し合い記載するような工夫にも期待したい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>会議には利用者も参加し運営状況を詳細に報告している。災害対策を報告する中で、自治会の避難訓練に事業所も参加する方向で話し合っている。家族や委員から出された意見や情報などは「ひまわりだより」に載せて報告している。一方、家族の参加は減少傾向にあり、会議での自己評価・外部評価に関する報告は不足している。</p>		<p>家族や委員が予定を立てやすいように年間計画を立て、テーマを決めて案内状を家族、関係者に送るなどの一考に期待したい。自己評価、外部評価の結果を会議の議題にのせて、率直に意見を交わすなどの取り組みにも期待したい。</p>
6	9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>管理者は市に出向き、書類などを提出する際に情報交換をするように努め、困難事例などを相談し連携しながら解決を図っている。グループホーム管理者会「あおいの会」が主催する、住民を対象にした認知症の講座に市の担当者を講師に招き、認知症の理解を深める取り組みに当事業所も協力している。</p>		
<p>4. 理念を実践するための体制</p>					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月「ひまわりだより」を発行し、ユニットごとの写真と担当職員のメッセージを入れて送っている。金銭管理についても毎月報告し、職員の採用時には「ひまわりだより」に載せ、来訪の際に退職した職員を報告している。家族の来訪時には主に管理者が対応し、コミュニケーションを密にしている。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族の来訪時に管理者は常に話を聞く姿勢で対応し、電話連絡の時も意見を聞き出すようにしている。要望などは申し送りノートに記録し、ミニカンファレンスや会議で取り上げ対応を話し合っている。外泊時の状態を聞くためのアンケートを実施し、その中でも意見を聞き運営やサービスに繋げている。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>法人のグループホーム間での異動は行われているが、基本的には最小限としている。特に管理者が変わる時は事前に報告し、業務の継続や対応に不安がないように丁寧に説明している。異動などでの精神的なダメージを少なくするため、普段から事業所間の交流を行っている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じた育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	法人内の研修委員会が毎月行っている研修会に半数の職員が参加し、医療、認知症の基礎知識やケアなどを学び、参加できなかった職員に伝達している。外部研修は基本的には自主参加で、事例検討や認知症について学んでいる。資格取得には積極的に協力し、新人職員には実践者研修の教材を活用した勉強会を考えているところである。		
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	江別市グループホーム管理者のつどい「あおいの会」に職員も参加し交流している。この会が主催する各事業所の出し物を発表する交流会やパークゴルフには利用者と職員が参加し、同業者との交流を楽しんでいる。法人内の他グループホームへの訪問や地域同業者のお祭りに出かけることもあり、同業者との交流を通して日常のケアに役立っている。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	入居前に見学を勧め、管理者は本人の状態やニーズを確認するために、病院、施設、自宅などを訪問し、本人とも話し合う中で安心して入居できるように配慮している。入居後は主に管理者が寄り添い、会話や表情を見ながら、徐々に新しい環境に馴染めるように利用者の思いを探りながら対応している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	本人が生きてきた暮らしの情報に重きをおき、その人なりの生活を受け止め、敬う対応を常に心掛けている。職員は常に聞く姿勢で味付けや漬物の手順などを教わり、相談しながら共に作業を進めている。利用者からの気遣いや感謝の言葉に慰められることが多い。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	利用者一人ひとりの意向に沿うため、生活歴などの情報収集やアセスメントの取り方を検討中である。職員はゆったりとした雰囲気をつくり、会話の中から本音を引き出したり表情や前後の行動を観察したりして利用者の思いを探り、情報を共有し、介護計画書に反映させている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	利用開始時に家族や医療関係者の意向、職員の意見を参考にして、計画作成担当者が介護計画の原案を作成している。その後、職員間でのカンファレンスを行い計画が作成されている。計画は家族に説明され、確認の署名捺印をもらっている。最初の介護計画は1ヶ月後に見直しを行っている。		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	3ヶ月ごとにモニタリングシートを用いて担当職員が評価を行い、生活援助計画を策定した上でカンファレンスを行い、介護計画作成者が修正を加え新たな介護計画を作成している。転倒や疾病など健康状態の変化が生じた場合の追加的な見直しも行われている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	毎週、法人本部からリハビリ担当の職員がホームを訪れ、機能訓練を行っている。同一法人のデイサービス、介護老人保健施設との交流も活発である。本部の相談センターが転居先を紹介したり、個別のかかりつけ医の通院の送迎も行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>協力医療機関による月2回の往診を受けており、訪問看護も必要に応じて受けている。その他の受診科目や利用者ごとのかかりつけ医の受診も可能で、職員が通院支援を行っている。協力医療機関には毎日利用者の健康状態をFAXで報告している。</p>		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>ホームではまだ看取りの経験はないが、個々の利用者の希望に沿ってできるだけホームで最後まで対応する方針としており、利用開始時に利用者や家族と「重度化対応、終末期ケア対応指針」を取り交わしている。また、重度化になった場合に入院先や告知方法などの意向を家族に書類で確認している。</p>		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>利用者の尊厳を重視し、普段の利用者への呼びかけやトイレ誘導などの際に利用者の誇りに配慮している。気になる場合は職員がお互いに注意しあっている。個人の記録は事務スペースに安全に保管・管理されており、利用者や職員と個人情報の取り扱いに関する同意・契約を交わしている。</p>		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>利用者は自由に過ごすことができ、身体状況に応じて日課や予定を柔軟に変更している。個々の希望に添えない場合や、職員が利用者の体調を把握できず一律に体操などをしてもらうような場面もあるが、職員同士が協力し合ったり注意しあうなどして補っている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むきやカット、食事の後片付けなど、できることを利用者にしてもらっている。利用者は職員と一緒に楽しく話し合い、必要に応じて介助を受けながら食事をしており、利用者ごとに一部のメニューを変えたり、トロミ、刻み食を提供している。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	日曜日以外の毎日入浴することができ、希望があれば夜間のシャワー浴も可能である。各利用者は最低週2回の入浴を行っており、毎日入浴する利用者もいる。入浴拒否がある場合は声かけやタイミングを工夫している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	掃除や、洗濯物たたみ、畑仕事、漬物作り、カレンダーめくりなど利用者の個々に得意なことをしてもらっている。裁縫や囲碁など趣味の活動も支援している。同一法人の他のグループホームと運動会を行うなど利用者同士の交流も活発に行っている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的な散歩の他、週2回の食品の買い出しに利用者と一緒に出かけている。通院帰りでの個別外食の機会もある。同一法人他施設との交流、花見やりんご狩り、居酒屋での食事会など年間行事での外出も行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間は玄関に施錠しているが日中はしていない。玄関ドアにチャイムを付け、利用者の出入りがある場合は気付けるようになっている。利用者が出かける場合は一緒に出かけたり見守りながら付いて行くようにしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>年2回を目処に昼夜を想定した避難訓練が実施されている。訓練実施後の各職員による反省レポート作成もなされている。運営推進会議で近隣に災害時の協力を依頼しており、職員の救急救命訓練も実施されている。</p>		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>職員が献立を作成し法人の栄養士のチェックを受け、カロリーや栄養バランスが調整された食事が提供されている。日々の記録に食事や水分の摂取量を記録し、状態に応じて補助食を利用したり量を調整している。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共用空間には利用者の写真や季節の装飾などが施され、利用者と共に作成した折り紙作品やカレンダーなどが飾られ家庭的な雰囲気を作っている。明るさは照明やカーテンで調整されており、温度計湿度計を設置し、快適な環境を保つよう暖房や加湿器で調整されている。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室には利用者が元々使っていた家具や馴染みの品物を持ち込むことができ、安心して過ごせる場所となっている。壁にも利用者が自由に写真やカレンダーなどを掲示することができる。</p>		

は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。